

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	高津区第2グループ(二子・東高津)	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	子ども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H26		H27		H26		H27	
	1 二子子ども文化センター ①年間延べ利用者数	25,811人	29,190人	②年間延べ利用団体数	290団体	286団体		
2 坂戸小学校わくわくプラザ ①登録者数	268人	271人	②年間延べ利用者数	17,435人	17,381人			
3 久本小学校わくわくプラザ ①登録者数	430人	448人	②年間延べ利用者数	27,588人	28,563人			
1 東高津子ども文化センター ①年間延べ利用者数	32,549人	29,849人	②年間延べ利用団体数	407団体	408団体			
2 東高津小学校わくわくプラザ ①登録者数	450人	478人	②年間延べ利用者数	26,557人	29,875人			

収支実績	単位:円	
	1 収入	
	指定管理料	93,728,747
	2 支出	
	人件費	85,115,632
事務費	7,930,839	
事業費	6,312,209	
その他経費	3,132,076	
合計	102,490,756	
3 差引	-8,762,009	

サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、活動や運営に反映。事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など地域を超えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施。
-----------	---

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、子ども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		子ども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
(評価の理由) 計画に基づいて、利用者の要望を取り入れながら事業を推進した。地域NPO法人の方々や協働した「二ヶ領用水クリーン大作戦」では子どもが学校・学年・地域を超えた交流ができた他、美化意識を高める活動となっている。野外活動「わくわくドキドキ子どもの国」では、薪割り体験や大鍋での炊飯を通して子どもにとって貴重な体験ができ、協調性や自主性を育むとともに、仲間と協力し合うことの大切さを学ぶ機会となっている。二子子ども文化センターでは地域ボランティア講師の協力を得て、「陶芸こねこねクラブ」を実施し、募集人数を大きく上回ったほか、小・中学生からの要望がきっかけとして、異年齢の交流を目的に、「二子ニコ卓球大会」を実施するなどした。これらの取組により、グループ全体の利用者は増えている。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続 効率的・効果的な支出	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
	支出に見合う効果が得られているか				
(評価の理由) 会計処理・金銭処理については適正に行われている。受託20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品の一括購入等の取り組みによる経費削減を図った。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	3	3
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	子ども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8
<p>(評価の理由)子ども文化センターでは毎月よりを発行し、活動を周知したほか、子ども文化センター・わくわくプラザ利用リーフレットや利用のしおりについて関係機関等に配布し、ホームページやかわさきFM、地域広報誌、掲示板の活用により、利用方法や活動について積極的に広報している。地域に密着した事業の推進を図るため、子ども文化センター運営協議会を実施する他、保護者懇談会の開催により保護者からのニーズ把握に努めていた。児童の健全育成を推進するため、学校、行政、地域との連携が図られており、二子子ども文化センターでは高津区役所子ども支援室との共催事業として「あつまれ1キッズ」を開催し、子ども支援室、民生委員、児童委員、保健福祉センター、地域保育園の職員が中心となって実施し、地域の1歳児を対象に親子遊びや子育て情報の提供等を行い、年間389名の参加があった。また、地域との連携として、地域NPO法人と協働で二ヶ領用水清掃活動を実施し、子どもたちの交流を図りながら、地域を流れる川を綺麗にしたり、地域ボランティア講師の協力を得て陶芸教室を実施し、保護者からも人気の行事となっているなど、地域の特性を生かした特色のある事業を行っている。事業毎のアンケートや、意見箱の設置により積極的に利用者の意見を吸い上げる仕組みを整備し、事業・運営へ十分に反映させており、図書・玩具の購入以外にも、二子子ども文化センターでは音楽コンサートの実施について多く要望があったため、高津区地域振興課と協力し音楽コンサートを開催したほか、東高津小わくわくプラザでは「わくわくランチ」を昨年度より多く実施してほしいという保護者からの要望に応え、昨年度4回のところ、今年度は7回実施した。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	川崎市児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例第54条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		子ども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおり人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由)適正な人員配置については、子ども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、利用児童数や特別な配慮を必要とする児童などの状況に応じて、適時、職員を加配しており、円滑な事業運営が行われた。研修体制については、法人全体の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的な研修が行われていた。個人情報等の取扱については、情報漏えい及び紛失等の事実はなかった。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>(評価の理由)利用者が安全に利用できるように、安全点検シートを活用し、開館・閉館時等に施設内設備の点検を行い、修繕を要する箇所には迅速に対応している。衛生管理については衛生管理マニュアルに沿って利用者の体調に配慮し、検温、保護者に対する呼びかけを実施したほか、感染症の流行状況や予防についてポスターの掲示等によって注意喚起を図った。また、不審者対応研修、普通救命研修、食品衛生管理・感染症予防研修を実施し、利用者の安全確保に取り組んでいる。災害マニュアルを整備し、消防・避難訓練を実施したほか、近隣施設と不審者情報の共有を行い、子どもたちに対し防犯についての呼びかけを速やかに行っている。また、二子子ども文化センターでは地域町内会や警察に依頼し、パトロールの際に子ども文化センターに寄ってもらうようにしたり、東高津子ども文化センターでは東高津小学校地域安全連絡会にて地域の情報交換をおこなうなど、地域と一体となった取組を図り、防災対策に取り組んでいる。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>指定管理以前から委託事業者として子ども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を活かし、53施設の指定管理者として、法人本部を中心に、全市規模、区規模の合同行事や職員研修、偏りのないサービスの提供が行えており、グループとしては、二ヶ領用水の清掃活動を開催するなど、地域の特性や要望を活かしたグループ合同行事や事業を展開できている。また、各館においても地域ボランティア講師の協力を得て、陶芸釜設備を利用した特色ある活動を行うなど、それぞれが利用者の独自の要望を取り入れ実施し、利用者の交流を促進した。</p>

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、子ども文化センターの利用者が利用しやすい環境の整備に努め、児童が安全で安心して過ごせるわくわくプラザの運営に努めること。
